

分娩週数、産科的介入、早期正期産、臨床結果、過期産1

妊娠39週未満で選択的分娩を回避しようという考えの影響もあり、妊娠39週以降の出産が増加している。分娩のタイミングには差異があり、この差異が大きな周産期の合併症や死亡率にも大きく関わっている。分娩誘発や帝王切開などの介入が分娩週数に影響を及ぼしているのかということが問題である。本号でClarkらは歴史的に分娩予定日は40週0日とされているが、実際に分娩するものは少し早いのではないかと述べている。彼らは分娩開始時の分娩週数も変化している可能性があるのではないかと想定している。最も重要な問題は産科的介入がケアの質の低下をもたらすか否かという点である。産科的介入の頻度が増えているが、介入が母児の結果に改善をもたらしているかを確認してみる必要がある。

Temporal and Gestational Age Trends: What Is the Effect of Obstetric Intervention?

Aaron B. Caughey

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):867-869

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

卵巣癌、スクリーニング法、腔分泌物、頸管分泌物、deepsequencing、TP53変異3

腔内に挿入したタンポンに含まれるDNAをシークエンシングする方法で卵巣癌の診断が試みられている。TP53遺伝子の変異は卵巣癌に由来するものであることがdeep sequencing法で確認されている。新しい方法は治療計画を立てる上でも有効で、我々は分子学的な診断の新たな時代に突入したとも言える。DNAが少ない場合、シークエンシングに伴うエラーが発生するリスクも高くなるが、人工産物を回避する特別技術も用いられている。スクリーニングで陽性と診断された場合、それが人工産物であるか否かを多数の患者で調べてみる必要がある。卵管が正常ではあるが臨床的に明らかな癌を有している患者の診断感度は60%ほどと考えられている。この方法の最大の特徴は卵巣癌のスクリーニングに使用できるのではないかとこの点である。もし、卵巣癌が前癌病変において、また早期の段階で検知されることができれば画期的なことである。新しい方法は血中におけるDNAや癌細胞を捕捉し検査する方法と同様に期待できる方法である。

Can Molecular Diagnostics Usher in a New Era for Screening, Diagnosis, and Treatment of Ovarian Cancer?

David G. Mutch

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):870-872

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

分娩、分娩週数、分娩時間、帝王切開、医学的介入5

最近報告されているアメリカにおける分娩週数のピークの妊娠40週から妊娠39週へのシフトは、アメリカ人における背景となる生理学的変化を反映している可能性があり、産科的介入のみが関わっているわけではない。1週間の仕事を通じて必要な医療以外の因子が分娩のタイミングおよび帝王切開率と関わっているものと思われる初回帝王切開の1/3までにも影響を及ぼしている可能性がある。

Association of Obstetric Intervention With Temporal Patterns of Childbirth

Steven L. Clark, Jonathan B. Perlin, Sarah Fraker, Jamee Bush, Janet A. Meyers, Donna R. Frye, Thomas L. Garthwaite

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):873-880

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

卵巣癌、DNA、変異、腔分泌物、スクリーニング8

今回の予備試験によって、卵管が正常な卵巣癌と診断された患者の60%において、腔内に腫瘍由来のDNAが存在していることが確認された。この方法を発展させることによって、卵巣癌という死に至る可能性のある疾患の早期発見の期待できる方法となる可能性がある。

Britt K. Erickson, Isaac Kinde, Zachary C. Dobbin, Yuxuan Wang, Jovana Y. Martin, Ronald D. Alvarez, Michael G. Conner, Warner K. Huh, Richard B. S. Roden, Kenneth W. Kinzler, Nickolas Papadopoulos, Bert Vogelstein, Luis A. Diaz Jr, Charles N. Landen Jr

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):881-885

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

腹腔鏡下手術、 Robotic 手術、 付属器摘出術、 嚢胞切除術、 嚢胞核出術、 費用対効果9

Robotic 手術を利用した付属器手術は急速に増加しているが、腹腔鏡下手術と比較したところ、Robotic 付属器手術では費用がかなり上昇し、術中の合併症にもわずかではあるが統計的に有意な増加が認められた。

Comparative Effectiveness of Robotically Assisted Compared With Laparoscopic Adnexal Surgery for Benign Gynecologic Disease

Jason D. Wright, Alessandra Kostolias, Cande V. Ananth, William M. Burke, Ana I. Tergas, Eri Prendergast, Scott D. Ramsey, Alfred I. Neugut, Dawn L. Hershman

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):886-896

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、 ミニラパロトミー、 ロボット手術)

子宮鏡下筋腫核出術、 手術法、 vasopressin、 手術時間、 出血量、 清明度 12

子宮鏡下筋腫核出術を施行する際に経頸管的にvasopressinを病巣内に注入することによって手術時間の短縮は得られなかったが液体の注入量は有意に減少し、液体の血管内侵入量および術中の出血量の減少が認められ術野の清明度も改善した。

Transcervical Intralesional Vasopressin Injection Compared With Placebo in Hysteroscopic Myomectomy: A Randomized Controlled Trial

Alyssa Sze Wai Wong, Chun Wai Cheung, Sik Wing Yeung, Hiu Lan Fan, Tak Yeung Leung, Daljit Singh Sahota

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):897-903

【文献番号】 g07400 (子宮鏡下手術)

endometrial ablation、 術後合併症、 子宮摘出術、 リスク因子 13

endometrial ablation を施行する際に治療結果に患者の特性が関わっていることをカウンセリングの際に伝える必要がある。endometrial ablationを受けたかなりのものにその後疼痛が認められる。

Postablation Risk Factors for Pain and Subsequent Hysterectomy

Kayla M. Wishall, Joan Price, Nigel Pereira, Samantha M. Butts, Carl R. Della Badia

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):904-910

【文献番号】 g02910 (子宮動脈塞栓術、 血流遮断術、 内膜凝固術、 内膜切除術)

肥満、 妊婦、 妊婦健診、 妊産婦管理 16

妊娠前のBMIは妊娠の自覚の遅れと相関せず、妊婦健診の遅れや健診を受けないリスクのオッズ比の上昇とも相関しないという結果が得られた。

Association Between Body Mass Index and the Timing of Pregnancy Recognition and Entry Into Prenatal Care

Courtney D. Lynch, Rachel Tumin, Mona R. Prasad

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):911-918

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、 高齢妊娠、 若年妊娠、 肥満、 糖尿病、 運動、 抑うつ)

妊娠第 2 三半期、 臍帯穿刺、 SGA、 早産、 低出生体重児、 胎児喪失 17

妊娠第 2 三半期において臍帯穿刺を受けることによってSGA、早産、低出生体重児および胎児喪失などのリスクは上昇する。

Second-Trimester Cordocentesis and the Risk of Small for Gestational Age and Preterm Birth

Theera Tongsong, Chanane Wanapirak, Wirawit Piyamongkol, Supatra Sirirchotiyakul, Fuanglada Tongprasert, Kasemsri

Srisupundit, Suchaya Luewan, Kuntharee Trisrisilp

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):919-925

【文献番号】 o03700 (胎児治療、 胎児手術、 胎児診断)

臍帯静脈、 臍帯動脈血、 血液ガス、 塩基欠乏、 胎児酸血症 21

臍帯静脈の血液ガスのパラメーターは動脈血の血液ガスのパラメーターおよび塩基欠乏の強力な予測因子となるという結果が得られた。臍帯動脈血が得られない場合には臍帯静脈血の血液ガスを調べることによって胎児酸血症の尤度を予測することができる。

Predicting Fetal Acidemia Using Umbilical Venous Cord Gas Parameters

Jessica Cantu, Jeff M. Szychowski, Xuelin Li, Joseph Biggio, Rodney K. Edwards, William Andrews, Alan T. N. Tita

Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):926-932

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、 新生児痙攣、 神経発達障害、 脳性麻痺、 新生児合併症、 新生児アシドーシス)

妊娠関連高血圧、ラボデータ、臨床的徴候、分娩、意思決定24

妊娠関連高血圧（pregnancy-associated hypertension）を認めた女性においてラボの検査値が異常と判定される頻度は疾患の重症度とともに増加するという結果が得られた。ネガティブな周産期の臨床結果はラボの検査値が異常を示す群において上昇し、特に臨床的徴候を認めたものにおいて上昇する。このような情報は早期の分娩の意思決定に有用である。

Laboratory Abnormalities in Pregnancy-Associated Hypertension: Frequency and Association With Pregnancy Outcomes
Jessica Cantu, Rebecca G. Clifton, James M. Roberts, Kenneth J. Leveno, Leslie Myatt, Uma M. Reddy, Michael W. Varner, Ronald J. Wapner, John M. Thorp Jr, Brian M. Mercer, Alan M. Peaceman, Susan M. Ramin, Philip Samuels, Anthony Sciscione, George Saade, Yoram Sorokin, for the Eunice Kennedy Shriver National Institute of Child Health and Human Development (NICHD) Maternal-Fetal Medicine Units (MFMU) Network
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):933-940

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、子癇前症、妊娠高血圧、妊娠高血圧性疾患、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

産婦人科領域、診療支援アプリ、有用性、精度27

産婦人科領域で活用できると思われるアプリの中で、実際に産婦人科に有用なアプリは 15%未満でないかと思われる。ヘルスケア提供者のケアを改善し患者の予後を改善する可能性のあるアプリについて産婦人科領域の専門団体はレビューし、その精度を確認してみる必要がある。このような重要な仕事を担う新たな委員会を発足させる必要がある。

Identification of iPhone and iPad Applications for Obstetrics and Gynecology Providers
Sara Farag, Kathy Chyjek, Katherine T. Chen
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):941-945

【文献番号】 m01100 (産婦人科関連領域、医学教育、総論)

Women's Health Initiative、HRT、ホルモン補充療法、冠動脈心疾患、疫学調査30

Women's Health Initiative の研究結果が報告された後に、ホルモン補充療法の使用状況に変化をもたらしたが、冠動脈心疾患による死亡率に影響は認められていないという結果が全国的調査で明らかとなった。

Coronary Heart Disease Mortality and Hormone Therapy Before and After the Women's Health Initiative
Pauliina Tuomikoski, Heli Lyytinen, Pasi Korhonen, Fabian Hoti, Pia Vattulainen, Mika Gissler, Olavi Ylikorkala, Tomi S. Mikkola
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):947-953

【文献番号】 r12300 (ホルモン補充療法、更年期、骨粗鬆症、性機能、代替療法、男性若返り療法、アンチエイジング、閉経)

母乳栄養率、出生前教育、母乳栄養支援、完全母乳栄養、母乳栄養期間32

母乳栄養率の高い地域において、1対1の出生前の母乳栄養の支援と教育は完全母乳栄養および母乳栄養持続期間の改善をもたらさなかった。

Antenatal Education to Increase Exclusive Breastfeeding: A Randomized Controlled Trial
Ka Lun Wong, Daniel Yee Tak Fong, Irene Lai Yin Lee, Sing Chu, Marie Tarrant
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):961-968

【文献番号】 n01400 (授乳法、母乳栄養、人工栄養、カンガルーケア、授乳、母児同室、ベッド共有)

染色体異常、異数性スクリーニング、出生前検査、羊水検査、非侵襲的出生前検査34

染色体の異数性のスクリーニングによって陽性と判定された妊婦に診断的検査を行ったところ染色体異常の16.9%は非侵襲的出生前検査で検知されるものではないという結果が得られた。検知されない数値的異常は比較的軽微なものから顕著な障害に結びつくものまで多様であった。このような結果は患者、ヘルスケア提供者にとって重要な情報である。また、伝統的スクリーニングや侵襲的出生前診断検査と非侵襲的出生前検査の比較検討を行っている機関が考慮すべき重要な情報でもある。

Chromosome Abnormalities Detected by Current Prenatal Screening and Noninvasive Prenatal Testing
Mary E. Norton, Laura L. Jelliffe-Pawlowski, Robert J. Currier
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):979-986

【文献番号】 r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

早期早産、破水、妊娠継続、出生前ステロイド投与、生存率、肺合併症37

破水後1週間以上妊娠が継続した女性に関するデータは限られている。今回、出生前にステロイドを投与し、積極的に肺に対する対応を試みることによって、PPROMから分娩までの期間が延長したとしても、生存し退院に至る割合は90%にも達するという結果が得られたが、肺の合併症はよく認められた。

Neonatal Survival After Prolonged Preterm Premature Rupture of Membranes Before 24 Weeks of Gestation
Jane E. Brumbaugh, Tarah T. Colaizy, Nina Nuangchamngong, Emily A. O'Brien, Diedre K. Fleener, Asha Rijhsinghani,
Jonathan M. Klein
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):992-998

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

PPROM、出生前コルチコステロイド、新生児敗血症39

PPROMと診断された患者において出生前コルチコステロイド投与を1コース試みたものに比較し2コース試みたとしても新生児敗血症のリスクの上昇は認められなかった。

Preterm Premature Rupture of Membranes and the Rate of Neonatal Sepsis After Two Courses of Antenatal Corticosteroids
Cynthia Gyamfi-Bannerman, Moeun Son
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):999-1003

【文献番号】 o04100 (前期破水、早期破水、早産、羊水感染)

エボラウイルス、出血性発熱、コウモリ、サル、接触感染、多臓器感染41

2014年8月、エボラウイルス疾患を有する2名のヘルスケア従事者がリベリアからアメリカへ撤退した。エボラウイルスに感染した妊婦において重症化あるいは死に至るリスクに関する根拠は示されていないアメリカの産婦人科医はエボラウイルス疾患の患者を検査しケアを与える準備を整えておく必要がある。2014年8月22日までに2,252名がエボラウイルスに感染し1,427名が死に至っている。エボラウイルス疾患は出血性発熱を伴うもので5種類のエボラウイルスによって引き起こされる。ヒトがコウモリやそれに感染したサルなどに接触することによって感染し、さらにヒトからヒトへ接触感染する。潜伏期間は2～21日、通常8～10日で、感染したものにおいては発熱やいろいろな症状が発現する。消化器症状をしばしば伴い、いろいろな組織に親和性があり多臓器感染を引き起こす。過去の流行においては死亡率は90%と報告されているが、およそ死亡率は55～75%と推定される。いくつかの実験的治療が行われているが、ヒトに関するデータはなくその有用性は限られている。

What Obstetrician-Gynecologists Should Know About Ebola: A Perspective From the Centers for Disease Control and Prevention
Denise J. Jamieson, Timothy M. Uyeki, William M. Callaghan, Dana Meaney-Delman, Sonja A. Rasmussen
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):1005-1010

【文献番号】 o01700 (妊娠、細菌性膣症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、GBS、HIV、感染症、MRSA)

子宮内膜増殖症、治療、予防、文献的考察42

子宮内膜増殖症に関わる5篇の関連論文を抄録した。論文1は癌のリスクとPCOSについて、論文2は子宮内膜増殖症に対するLevonorgestrel含有IUDの有用性について、論文3は子宮内膜増殖症と早期の腺癌に対するホルモン療法について、論文4は高インシュリン血症と子宮内膜増殖症および異常子宮内膜の増殖との関係について論文5は子宮内膜病変の予防に対する生活習慣とmetforminの効果に関する論文である。

What Is New in Endometrial Hyperplasia Treatment or Prevention?: Best Articles From the Past Year
Susan C. Modesitt
Obstet Gynecol. 2014 Nov;124(5):1029-1030

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)
